

P-A-9

タヒボ NQ801 の上皮細胞に対する効果と安全性

Effects of Taheebo NQ801 on Epithelial Cells and Safety Tests

○太田 富久¹⁾, 山口 昌之¹⁾, 徳田 春邦²⁾

1) 金沢大学医薬保健研究域, 2) 金沢大学大学院医学系研究科

We investigated the effect of Taheebo NQ801 on human epithelial cells, and performed acute/subacute safety tests. Taheebo NQ801 revealed the actions of human keratinocyte proliferation and anti-inflammation. These results suggest that Taheebo NQ801 may repair and reconstruct the damaged human skin.

【目的】

タヒボ NQ801 の上皮細胞に対する効果と安全性について検討した。

【方法】

正常ヒト表皮角化細胞（ケラチノサイト）を最終濃度 0.4×10^5 cells/mL で 96 穴プレートに播種し、培地で溶解させたタヒボ NQ801 (最終濃度 10, 50, 100, 200 μ g/mL) を添加した。これにプロテインキナーゼ C 活性化剤である Phorbol 12-myristate 13-acetate (PMA) を添加してケラチノサイトを刺激する系 (PMA +) と刺激しない系 (PMA -) を設け、48 時間培養を行った。培養後、培養上清液を回収し、上清回収後の 96 穴プレートに新鮮な培地と MTT 溶液を添加して MTT 試験を行なった。回収した培養上清は、ELISA 法にて炎症性サイトカインである IL-8 の産生量を測定した。さらに、タヒボ NQ801 の急性毒性及び亜急性毒性試験を行った。

【結果】

タヒボ NQ801 は、ケラチノサイト増殖活性試験において PMA 未刺激下で有意に増殖活性を示し、PMA 刺激下でも増殖傾向が見られた。また、炎症性サイトカインである IL-8 の産生については PMA 未刺激下では産生に影響が見られなかったが、PMA 刺激下では有意な IL-8 産生抑制が認められた。

【結論】

これらのことから、タヒボ NQ801 には皮膚の表皮細胞を増殖させ、新陳代謝を促進する可能性が示唆された。また、IL-8 産生が抑制されたことから、正常時の皮膚には影響を与えず炎症時の皮膚においてのみ抗炎症作用が期待出来ることが示唆される。以上のケラチノサイトの増殖と抗炎症の 2 点からタヒボ NQ801 には、皮膚損傷を修復し、皮膚の再構築を促進する効果を有する可能性が示唆された。また、タヒボ NQ801 の安全性が確認された。